

機関番号：34506

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2008～2010

課題番号：20720190

研究課題名(和文) 中世アラブの書物と文化：アラビア語写本・文書史料による文献学的研究

研究課題名(Book and culture in Medieval Arab World: a philological study through Arabic manuscripts and archives)

研究代表者

中町 信孝(NAKAMACHI NOBUTAKA)

甲南大学・文学部・准教授

研究者番号：70465384

研究成果の概要(和文)：

マムルーク朝期に活躍した歴史家アイニーを中心に、その同時代の知識人による知的実践を、手書き写本・文書史料の精査から分析した。写本についてはイギリス、アイルランド、チュニジア、エジプトから未刊行写本のコピーを入手し、校訂・分析を進めており、またオスマン朝時代におけるアラビア語写本の受容と普及を分析したポスター発表を行った。文書と写本とを統合した分析として、アイニーの学問的キャリアを分析した論文を発表した。

研究成果の概要(英文)：

This study is focused on the social practice of the intellectuals; Badr al-Din al-`Ayni and his contemporaries of the Mamluk Period, from Arabic manuscripts and archives. I acquired dozens of copies of unpublished manuscripts from libraries in England, Ireland, Tunisia and Egypt, and proceeded with surveying them and editing. I read a paper about the spread of Arabic manuscripts in the Ottoman Period. I published an article about the academic career of al-`Ayni thorough manuscripts and archives.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	2,100,000	630,000	2,730,000
2009年度	700,000	210,000	910,000
2010年度	500,000	150,000	650,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：文献学、写本学、ウラマー、アラブ中世史、マムルーク朝、エジプト、国際研究者協力

1. 研究開始当初の背景

書物あるいは読書行為を分析の対象とする歴史研究は、西洋史、日本史、中国史の領域で多くの優れた研究が現れているが、イスラーム史においては、書物や写本を社会史や文化史と結びつけた研究に乏しい。このような研究上の遅れは、「イスラーム世界」を「文字の文化」よりも「声の文化」が支配的な社

会とみなす考え方に起因するといえる。

一方、これまでに研究代表者はマムルーク朝時代カイロで活躍したアイニーという歴史家とその作品を取り上げ、文献学的手法によって彼の著作とその生涯を分析してきた。その結果、一人の知識人による執筆のプロセスや、彼が自著を流布させようとした戦略、および彼が自著を執筆する、読誦する、寄

進・献呈するなどの行為によって自らの社会的地位をいかにして高めたかを明らかにした。こうして明らかになったアイニーの知的実践のあり方は、従来知られていた中世アラブの知識人のキャリアパターンに合致するものでありながら、その周縁性や歴史分野への偏重という点において、従来のモデルから逸脱する部分も多い。

このようなアイニーと、彼と同時代の知識人による知的実践を精査することで、歴史的イスラーム世界の社会史・文化史研究に新たな光を当てることができると考えたのである。

2. 研究の目的

アイニーの経歴分析から当時のイスラーム知識人の全体像の考察に進むことを目指しつつ、知識の伝達・蓄積における書物の役割に焦点を当てる。確かに当時の知識人は口伝を重視したが、現存するアラビア語写本・文書史料の量の膨大さが裏付けているように、実際の知識の伝達・蓄積に当たっては同時に書き言葉をも大いに利用していたことは明らかである。口伝と書物（写本）との関係を相補的なものととらえ、中世アラブの社会史・文化史の中で書物が有した重要性を再評価することが、本研究の目的である。

また、本研究で明らかにされるイスラームにおける書物の歴史は、ヨーロッパや中国、日本など他地域における読書・書物史との比較の土台を広く提供することにもなる。

3. 研究の方法

(1)写本研究：現存する様々な中世アラビア語写本を扱うが、その際に本文テキストのみならず、紙質や書体などの外形的特徴、および奥書や表紙・欄外の書き込みに注目し、それぞれの写本が伝える諸情報を総合的に検討する。そしてそれぞれの写本が、いつ、どこで、誰によって、どのような状況において、何の目的で作成されたかといったデータを収集・整理し、中世アラブの知識伝達において写本・書物の果たした役割を具体的に再構成する。

(2)文書研究：ワクフ文書と呼ばれる寄進財産文書群を用いる。これらの文書では、宗教的教育施設における雇用・労働・就学の実態が明らかになることがある。本研究はこれらワクフ文書における書物の扱われ方や知識伝達のあり方に関する情報を広く集め、教育施設においてどのような書物が寄進されたか、どのような条件が課されたか、実際にどのように利用されていたかを可能な限り明らかにする。特に、書物の書写および読誦に関する記述に注目し、ある書物がどのような読者・聴衆に消費されていたかを分析する。

(3)統合分析：これまで応募者が分析してきたアイニーという歴史家を中心に据えながら、彼が強く影響を受けたいわゆる「シリア学派」と呼ばれるサークルに属する知識人である、イブン・ジャウズィーやザハビーといった代表的な著述家に焦点を絞り、彼らの社会的位相を通時的側面と共時的側面から考察する。通時的側面は、彼らがどのような師から学問を学び、どのような弟子にそれを教授したかを明らかにするために、彼らの諸著作とその前後の時代に編まれた諸著作とを詳細に比較する。共時的側面は、彼らと同時代の著述家による文章との比較を行って、彼らを取り巻く知識人サークルの中での相互引用関係を跡付け、その中で彼らがどのような際立った特徴を有していたかを考える。このような分析を通し、中世アラブにおける学派・学党と書物を介した知の伝達のあり方との相関を包括的に考察する

4. 研究成果

(1)写本研究に関しては、まずはアイニーの主著である大歴史書『真珠の首飾り`Iqd al-juman fi ta rikh ahli al-zaman』の自筆本を、エジプトのアラブ連盟写本研究所からマイクロフィルムにて将来し、これにより、全 19 巻からなる『真珠』自筆本のうち、現存するもののすべての複写が揃った。今回手に入れた複写のカタログ番号は以下のとおりである。

Ma`had al-makhtutat al-`arabiyya, Cairo

Cat. No.	Author	Title
Ahmet 2911/a1	al-`Ayni	`Iqd al-juman, v.1
Ahmet 2911/a2	al-`Ayni	`Iqd al-juman, v.2
Ahmet 2911/a3	al-`Ayni	`Iqd al-juman, v.3
Ahmet 2911/b6	al-`Ayni	`Iqd al-juman, v.6
Ahmet 2911/b7	al-`Ayni	`Iqd al-juman, v.7
Ahmet 2911/a8	al-`Ayni	`Iqd al-juman, v.8
Ahmet 2911/a9	al-`Ayni	`Iqd al-juman, v.9
Ahmet 2911/a10	al-`Ayni	`Iqd al-juman, v.10
Es`ad 2317	al-`Ayni	`Iqd al-juman, v.11
Ahmet 2911/a12	al-`Ayni	`Iqd al-juman, v.12
Veliyuddin 2390	al-`Ayni	`Iqd al-juman, v.13
Veliyuddin 2392	al-`Ayni	`Iqd al-juman, v.15

また自筆本以外でも、チュニジア国立図書

館より、従来知られていなかったアイニーの別著作『満月の歴史 *Ta'rikh al-badr fi awsaf ahl al-'asr*』写本の複写3点を入手した。そのカタログ番号は以下のとおりである。

Bibliothèque nationale de Tunis

Cat. No.	Author	Title
BNT 6245	al-'Ayni	Ta'rikh al-badr
BNT 13596	al-'Ayni	Ta'rikh al-badr
BNT 13597	al-'Ayni	Ta'rikh al-badr

アイニーと同時代の歴史家による歴史書の写本数点(アイニーによる非歴史系著作1点も含む)を、英国オクスフォードのポドリアン図書館およびアイルランド・ダブリンのチェスター・ピーティエー図書館のコレクションの中からピックアップし、複写を入手した。その内容は以下の通りである。

Bodleian Library, Oxford

Cat. No.	Author	Title
Marsh 223	Ibn Habib	Durrat al-Aslak
Marsh 319	Ibn Habib	Durrat al-Aslak
Marsh 591	Ibn Habib	Durrat al-Aslak
Marshall Or. 36	Ahmad al-Bayruti	

Chester Beatty Library, Dublin

Cat. No.	Author	Title
Arab 3663	al-Sakhawi	al-Sakhawiyyat
Arab 4113	al-Muqri	Nathr al-Juman
Arab 4125	Ibn Qadi Shuhba	
Arab 5177	al-'Ayni	Zayn al-Majalis
Arab 5527	Ibn Qadi Shuhba	

これらの写本はアイニーと彼を取り巻く同時代の知識人たちが執筆した歴史書であり、いずれも当時の知識人サークルの知的環境を分析する上での重要な史料となる。これらのうち、あるものについてはマイクロフィルムスキャナを用いて電子ファイル化し、またあるものについては印刷製本して、校訂・分析作業に簡便に用いることができる状態で保存している。

研究成果の公表としてはまず、本研究のとする歴史文献学の展望論文として下記の〔雑誌論文〕を公表した。また〔学会発表〕は、イスタンブールのトルコ・イスラム美術博物館所蔵のMS 2155の前書きを読み解くことから、アイニーの『真珠』が後代のオスマン朝時代にどのように受容されたかを考察したものである。

そのほか、アイニー『真珠』の同時代における受容のされ方についての論文「マムルーク朝後期史料としてのアイニーの年代記」を準備中であるが、公表にはいたっていない。

(2)文書研究に関しては、未だ下調べの段階に留まってはいるが、このジャンルに関しての問題点と展望を、以下のごとく提示しておく。

第1に、書物をワクフとする行為についての基本的情報の欠如である。確かに、この時代のワクフ対象物件の多くが教育・宗教施設に集中しており、それらの施設が通常「書庫」と呼ばれる蔵書施設を併設していたことは、大部のワクフ文書の記述の中に「書庫の番人」なる役職名が散見されることから明らかである。しかし、既存のワクフ文書中の記述はあくまで役職に関するものであって、個々の蔵書施設にどのようなタイトルの書物がどのくらいの量収められており、どのような条件でそれらが利用されていたのかについては、ほとんど知るよしが無い。こうした個別事例の欠如が、従来のワクフ研究において書物に関する事柄が見過ごされてきた要因となっていたのである。

第2に今後の展望であるが、ワクフ行為における書物に関する細かな取り決めについては、大部のワクフ文書を参照するよりは、個々の写本のタイトル頁や奥書に時折記されているワクフ設定文にこそ、豊富な情報が見られる。たとえばアイニーの弟であるアフマド・アイニーが執筆した『流星の歴史』なる歴史書の自筆本5点には、そのタイトル頁それぞれに執筆者の自筆によるワクフ設定文が付されており、設定年月日から本の設置場所、設置責任者、読誦のための日時・場所の指定、貸借の条件などの詳細な情報が記されている。

このような、個々の書物に関する細かなワクフ条件の設定という事例は決して一般的なものではないが、こうした事例を数多く集めて比較することによって、この時代の書物の利用の実態を明らかにすることができるであろう。そのためには、ある程度のまとまった写本コレクションの悉皆調査という手段が有効であると考えられる。

なお、上記のアフマド・アイニーによる自著のワクフ設定については、現在公表準備中の論文「マムルーク朝期の非著名知識人による社会的実践」において、一部詳しく論じる予定である。

(3)統合分析については、〔雑誌論文〕で、アイニーがいかにしてその学問キャリアを構築したかを分析した。さらにその続編にあたる論文「バドルッディーン・アイニーの政治的キャリア」を次年度中に公表する予定である。またアイニーを取り巻く知識人の中からその弟アフマド・アイニーのライフコースを細かく分析する論文「マムルーク朝期の非著名知識人による社会的実践」を現在準備中である。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計2件)

中町信孝、バドルッディーン・アイニーの学問的キャリア：マムルーク朝ウラマーの一事例、甲南大学紀要文学編、査読なし、159、2009、51-71
中町信孝、ツールとしての文献学を越えて：アラビア語文献学の展望、歴史と地理、査読なし、616巻、2008、53-57

[学会発表](計1件)

中町信孝、オスマン朝時代のアラビア語写本：トルコ・イスラム美術館博物館2155-2162 写本をめぐって、日本オリエント学会第51回大会、2009年10月10日、同志社大学

[図書](計1件)

太田敬子、八塚春児、中町信孝ほか、十字軍全史、新人物往来社、2011年、100-103、112-115

6. 研究組織

(1)研究代表者

中町 信孝 (NAKAMACHI NOBUTAKA)
甲南大学・文学部・准教授
研究者番号：70465384